

第348号  
2018年  
3月25日  
月1回25日発行

# げんぱつ

原発住民運動情報

発行所 原発問題住民運動全国連絡センター  
発行人 中村敏夫/1部300円 年間3,000円  
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町2-11-13  
MMビルII 402  
TEL 03-5215-0577 FAX 03-5215-0578  
郵便振替 00150-7-355202  
http://genpatu.com/index.html  
メール=genpatu-jumin-c@nifty.ne.jp

## 原発ゼロの未来へ福島とともに 3・4全国集会

### 「原発ゼロ法」の実現へ！

メインスピーカー  
**吉原毅** 原住連会長  
城南信用金庫顧問

特別報告  
**伊東達也** 原住連筆頭代表委員

東日本大震災、福島第一原発事故から七年を経過する三月四日、「原発をなくす全国連絡会」が「原発ゼロの未来へ」福島とともに3・4全国集会を、東京・日比谷野外音楽堂で開き、福島をはじめ各地から三千人（主催者発表）が参加した。

主催者を代表して小田川義和さん（全労連議長）が開会あいさつ。「原発ゼロ・自然エネルギー推進連盟」（原自連）が公表した「原発ゼロ・自然エネルギー基本法案」について「全面的に賛成し、実現へ全力を尽くす」と表明。「被災者救済でも再稼働阻止でも攻めの情勢をつくりだしてきた。原発ゼロへ福島とともに歩んでいこう」と呼びかけた。

志位和夫日本共産党委員長があいさつ。小泉純一郎、細川護熙両元首相が顧問を務める原自

○日時 11月10日～11日  
○場所 柏崎市「産業文化会館」

### 東京・日比谷野外音楽堂に3000人



パレードの先頭に立つ伊東達也代表委員（前列中央）

連の基本法案について「全面的に賛成です」と高く評価。伊東達也代表委員は「運動は一切認めない」という基本法案の「肝」の考え方が生きる形で「野党共同の法案をまとめていくために話し合っていきたい」と表明した。

口基本法案について「電力会社もつぶれない。立地地域の経済も困らない。困るのは原発の利権にまみれた一部の人たちだけだ。基本法実現へ大きく世論を盛り上げていこう」と呼びかけた。

「原発問題住民運動全国連絡センター」筆頭代表委員で「原発事故被害いわき市民訴訟」原告団長の伊東達也さんが特別報告。「福島県民は、日本で最初に原発ゼロの県をめざして頑張る」と、話を結んだ。

「首都圏反原発連合」のミサオ・レツドウルフさんと「さよなら原発1000万人アクション」の井上年弘さんが連帯のあいさつ。

各地各分野から四人が発言。司会から自由党山本太郎共同代表、米山隆一新潟県知事、上原公子「脱原発をめざす首長会議」事務局長のメッセージが紹介され、壇上の日本共産党笠井亮衆院議員、岩淵友、吉良よし子両参院議員が紹介された。

バス五台で参加した福島からの百八十人の参加者が壇上に登壇する中、「集会アピール」を採択した。

集会後、参加者は銀座パレードを行った。

○原住連「野党共同法案として国会へ提出（二面）」  
○東京地裁「自主避難に合理性」国と東電に賠償命令（二面）  
○揺らぐ原発輸出政策（五面）



●東京・日比谷野外音楽堂の「3・4全国集会」は、好天に恵まれたなかで盛大に開かれた。

吉原毅原住連会長と伊東達也原住連筆頭代表委員が「メインスピーカー」「特別報告」と並んだ姿に、事故後七年の運動の成果が象徴される●「全国集会」のテーマである「原発ゼロ基本法案」は、小泉純一郎、細川護熙両元首相が「原自連」顧問として先に記者会見で発表したものである。「原発ゼロ」は国民世論では圧倒しているが、「全国集会」での「吉原」「伊東」の揃い踏みは、運動面でも大きな広がりを感じた●「原発ゼロ法案」が国会で真正面から議論されるようになれば、これに背を向ける安倍首相もウカウカしてはおれない。「原発ゼロ」を次の国政選挙の一大争点とする。この国民的対話・議論の広がり深まりが「原発ゼロ」を実現する力となる。